

平成17年3月期中間
決算説明資料

平成16年11月24日

川重冷熱工業株式会社

平成17年3月期中間決算概要

平成17年3月期中間の総括



当中間期の業績は、機器、改修改造・メンテナンス共に前年同期比増の売上となりました。併せてコストダウンおよび諸経費の圧縮に努めました結果、売上、経常利益、中間純利益共に前年同期比を上回る結果となりました。

平成17年3月中間貸借対照表 川重冷熱

資 産

金額単位:千円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
流動資産	8,626	8,882	97.1%	
現金及び預金	16	661	2.4%	川崎重工業グループファイナンスを導入したことにより余剰資金を圧縮。
受取手形・売掛金	6,200	6,118	101.3%	
棚卸資産	1,938	1,789	108.3%	
繰延税金資産	230	271	84.9%	
その他流動資産	239	41	582.9%	川崎重工業グループファイナンスを導入したことにより余剰資金を川崎重工業へ預け入れたことによる。
固定資産	3,683	3,643	101.1%	
有形・無形固定資産	2,221	2,182	101.8%	
長期繰延税金資産	1,190	1,212	98.2%	
投資その他の資産	271	248	109.3%	
資産合計	12,309	12,525	98.3%	

平成17年3月中間貸借対照表 川重冷熱

負債・資本

金額単位:千円

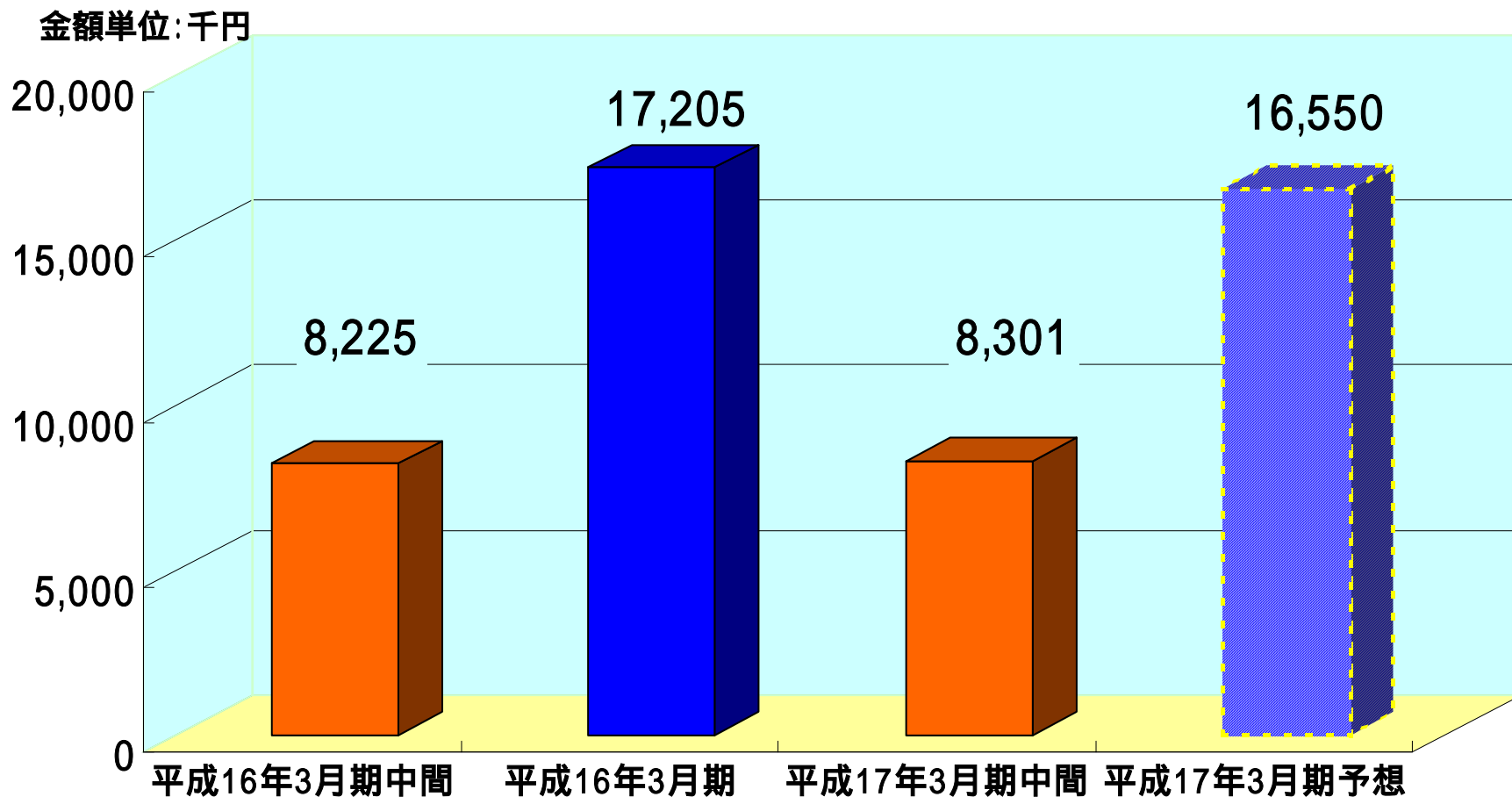
流動負債	5,468	5,522	99.0%	
支払手形・買掛金	4,409	4,055	108.7%	
短期借入金	30	270	11.1%	キャッシュフローの好転と川崎重工グループファイナンス導入による余剰資金の圧縮。
前受金	126	205	61.5%	
設備、支払手形・未払金	169	114	148.2%	
その他の流動負債	732	878	83.4%	賞与引当金等の減少の影響
固定負債	3,066	3,258	94.1%	
退職給付引当金	2,955	3,178	93.0%	退職金支給による取崩し増加の影響
その他固定負債	110	80	137.5%	
負債合計	8,534	8,781	97.2%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,082	1,054	102.7%	
(内、当期純利益)	(23)	(2)	1150.0%	
株式等評価差額金	10	4		
自己株式	6	3	200.0%	
資本合計	3,775	3,744	100.8%	
負債・資本合計	12,309	12,525	98.3%	

平成17年3月中間損益計算書 川重冷熱

金額単位:千円

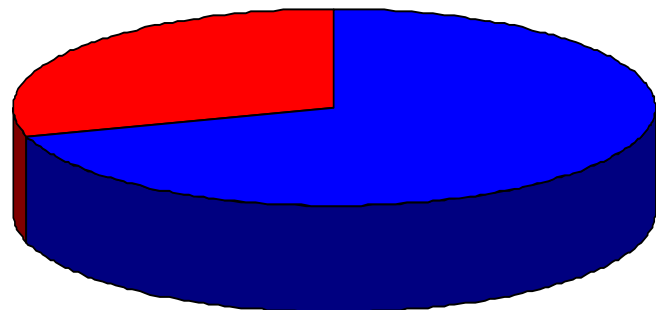
	当中間	前中間	前年同期比	備 考
売 上	8,301	8,225	100.9%	ボイラ事業の機器、改修改造工事・メンテナンスが増加した影響
売上総利益	2,166	2,076	104.3%	
販売費及び一般管理費	1,986	1,927	103.1%	
営業利益	179	148	120.9%	
営業外収益	9	8	112.5%	
営業外費用	19	13	146.2%	
経常利益	169	143	118.2%	
特別利益	16	0	—	貸倒引当金戻入
特別損失	102	102	100.0%	102は、退職給付会計基準変更時差異償却。
税引前中間純利益	83	40	207.5%	
法人税、住民税及び事業税	60	38	157.9%	
法人税等調整額	—	—	—	
中間純利益	23	2	1150.0%	
前期繰越利益	290	282	102.8%	
中間未処分利益	313	285	109.8%	

売上の推移



売上構成比の比較

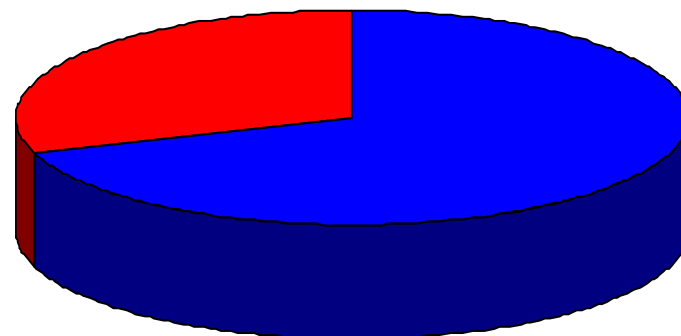
ボイラ事業
29.7%



空調事業
70.3%

平成16年3月期中間

ボイラ事業
30.8%



空調事業
69.2%

平成17年3月期中間

要因分析

空調事業は、機器が増加し、改修改造工事・メンテナンスが減少したために、事業全体で減少いたしました。一方、ボイラ事業は、機器、改修改造工事・メンテナンスの共に増加したために構成比が変動いたしました。

セグメント分析

空調事業

主力機種の「シグマエース」が順調に増加したことで、機器の売上が増加いたしました。

改修改造工事・メンテナンスは、受注残高が少なかったことにより売上が減少いたしました。

ボイラ事業

水管ボイラが増加したことにより、機器の売上が増加いたしました。

巡回訪問を強化したことにより改修改造工事・メンテナンスも増加いたしました。

平成17年3月期 業績予想

平成17年3月期の業績予想



金額単位:千円

	今期予想	前 期	前 期 比	備 考
売 上	16,550	17,205	96.2%	
空調事業	11,520	11,499	100.2%	
ボイラ事業	5,030	5,706	88.2%	
経常利益	510	503	101.4%	
当期純利益	115	108	106.5%	

セグメント別事業計画



空調事業

主力機種である大型機の「シグマエース」により取替需要の確保に努め、他方ではコージェネレーションシステムの一部に組み込まれ排熱、排温水を利用する吸収冷温水機として注目されている「シグマエースジェネリンク」で新規需要開拓に努めます。

電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及およびサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

ボイラ事業

貫流ボイラで蒸発量100kg/h ~ 6000kg/hの小容量から大容量までの機種をラインナップしておりますので、この品揃えを活かした販売活動を積極的に展開し、貫流ボイラのシェアアップを図ります。

電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及およびサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

参 考

当社は、顧客第一主義を掲げ、設計・製造、販売、サービスの一貫体制のもと、製品、サービスの付加価値を高め、提案型営業に努め業容拡大を図ってまいります。

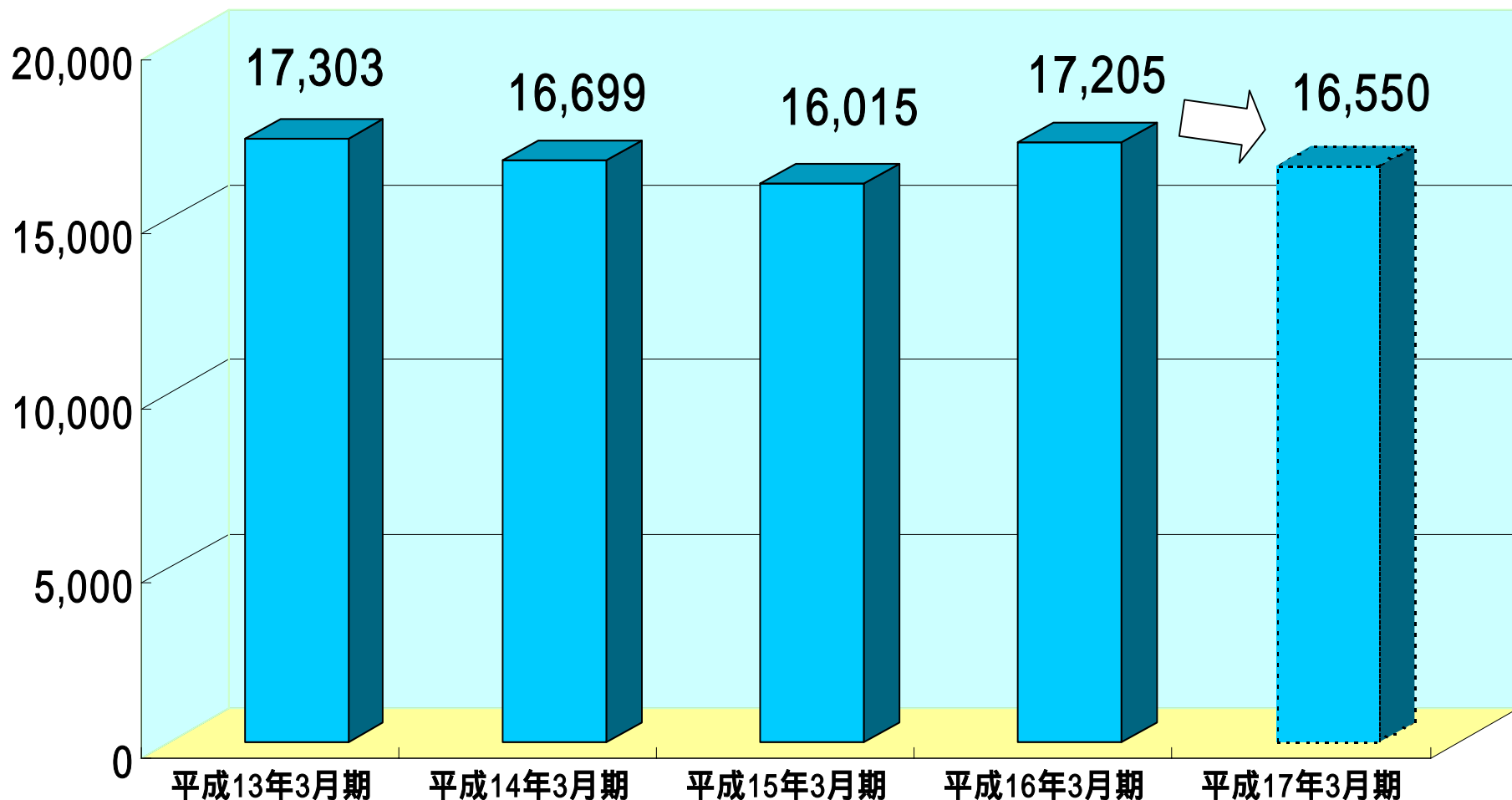
また、財務体質の改善・強化、業務の効率化、顧客管理システムの確立、生産体制の合理化、コストおよび固定費の削減に努め、経営基盤の一層の強化を図ってまいります。

当社の関連する空調業界では、省エネルギーおよび吸収式の特長を最大限に活かして余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が進展していくものと思われます。また、市場競争の激化により販売価格が低下傾向にあります。

ボイラ業界は、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。当業界では、M&Aにより、来年度に新しい会社が誕生します。

売上の推移(予想)

金額単位:千円



本資料に関する問合せ先

川重冷熱工業株式会社

企画室 管理部

TEL 06-6325-0300

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。